

## ショートコメント vol.172 (2020年6月5日)

テーマ：外国人による国外への移動状況

～全国的には4月に転出超過へ。地域別には関西の減少が最大～

### ●外国人の国外への移動状況

新型コロナウイルスの影響で、外国人による日本から海外への転出が増えている。

今年から住民基本台帳人口移動報告では、国内での転出・転入に加え、日本と海外との間の移動についても公表されている。

それによると、外国人による日本～海外の移動状況は、1～3月は海外からの転入が転出を上回っていたが、4月は転出超過となっている(図表1)。これはまさしく新型コロナウイルスの影響であり、各国が入国の規制に踏み切る中、その前に母国へ戻る動きが増えたとみられる。

### ●3大都市圏での比較

この動きを地域別にみると、転出超過の規模が最も大きいのが関西である。すでに3月から転出超過となっており、3、4月の合計で2千人を上回っている。一方、南関東は4月に522人の転出超過、東海は同じく4月に73人の転出超過にとどまっており、関西の大きさが目立つ(図表2)。

その要因の特定は難しいが、3月に減少が目立つ地域には、北海道や長野といった観光に強みをもつ地域が多いことから、そこに関西との共通点も見いだせる(図表3)。2月にインバウンドが急減し、事業の見通しが立ちにくくなった中、航空会社による中国や台湾、韓国便などの減便も2月ごろから一気に進んだため、早いタイミングで出国が増えた可能性は否定できない。

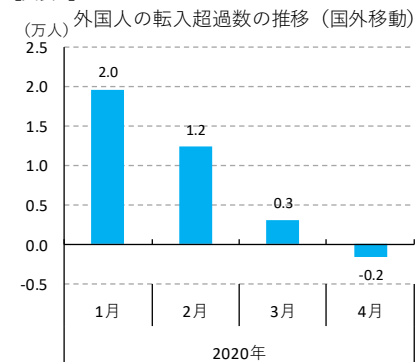
これらの出国の動きについては、世界的な感染の状況を見ても、4月がピークと考えられるものの、転出そのものは5月以降も続く可能性はあろう。また、感染収束後の再入国の動きについては全く読めず、引き続き月次の推移に注目する必要があるとみられる。

### ●外国人による国内移動の状況

その一方、外国人による国内での移動については、引き続き関西は好調を維持している。近年、関西への転入は増加傾向が続いており、1～4月の累計でも、18年は413人、19年は916人、20年は1503人と着実に増えている(図表4、次ページ)。これは南関東や東海にはみられない動きであり、関西にとっては非常に明るい材料といえよう。

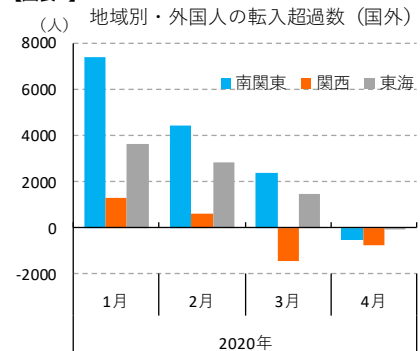
近年の増加傾向の背景としては、インバウンド市場の拡大に伴う、外国人向けの求人の増加が挙げられ

【図表1】

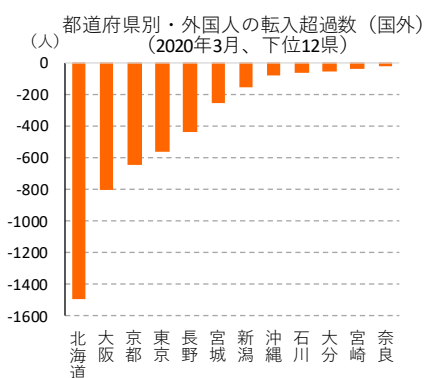


(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」、以下同じ

【図表2】



【図表3】

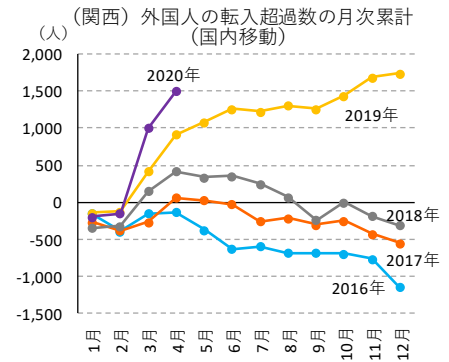


※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

る。ホテルや小売関連、外食を含むサービス関連で幅広く求人が増えているほか、それらの業種に限らず、外国人向けビジネスに乗り出す企業が増える中、外国人の採用が増えているとみられる。

ただし、20年1~4月もそのトレンドが続いているとはいえ、5月以降も続くかどうかは不透明である。企業の経営環境の急変を受けて、採用計画が見直される可能性は否定できない。これらは感染の収束時期や、経済の回復時期に左右されるとみられ、今後、月ごとの動きに注目する必要がある。

【図表 4】



本件照会先：大阪本社 荒木秀之  
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。